

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10365

研究課題名(和文)ポートフォリオ・アプリを用いた炎症性腸疾患患者セルフケア看護支援プログラム

研究課題名(英文) Self-Care Nursing Support Program for Patients with Inflammatory Bowel Disease Using Portfolio Apps

研究代表者

富田 真佐子 (Tomita, Masako)

昭和大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10433608

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：潰瘍性大腸炎とクローン病に代表される炎症性腸疾患は、若年者に多く発症する難治性の腸疾患である。セルフケアを支援するツールとして開発したポートフォリオアプリケーションソフトをさらにバージョンアップし、デザインの変更、患者への使用説明書の作成、Youtube動画の作成、ホームページの開設を行い、入院患者を対象としたセルフケア看護支援プログラムの準備を進めていた。

しかし新型コロナウイルス感染拡大のため、研究者が病棟に入ることができなくなり、研究が中断した。そこで新たな研究課題「オンライン診療と看護を組み合わせた炎症性腸疾患患者に対するセルフケア支援の構築」に引き継いだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

炎症性腸疾患は、生産年齢である若年者に多く、再燃を繰り返しやすい疾患であるが、食事療法や栄養療法、自己注射などのセルフケアによって、ある程度寛解維持が可能である。寛解維持を継続するためには毎日の自己管理が重要であり、看護支援プログラムは有用であると考えられる。再燃を防ぎ、病を抱えながらの生活を豊かにすることは、患者のQOLに寄与し、仕事や家庭・社会活動を継続することで社会にも貢献することができる。

研究成果の概要(英文)：Inflammatory bowel disease, represented by ulcerative colitis and Crohn's disease, is an intractable bowel disease that often affects young people. The portfolio application software developed as a tool to support self-care was further upgraded, redesigned, instructions for use were created for patients, Youtube videos were created, and a website was launched to prepare a self-care nursing support program for hospitalized patients. The company was preparing a self-care nursing support program for hospitalized patients.

However, due to the spread of COVID-19 infection, the researchers were unable to enter the hospital wards and the study was suspended. Therefore, the project was taken over by a new research project, "Establishment of self-care support for patients with inflammatory bowel disease by combining online medical care and nursing care".

研究分野：看護学

キーワード：炎症性腸疾患 セルフケア支援 ポートフォリオ アプリケーションソフトウェア

1. 研究開始当初の背景

炎症性腸疾患は、10歳代から20歳代の若年者に多く発症する難治性の腸疾患である。潰瘍性大腸炎とクローン病が該当し、欧米に多い疾患であるが、近年日本でも患者数が増加している。研究開始当初の医療受給者証保持者数は、潰瘍性大腸炎が16万人、クローン病が4万人を超えている。病因の特定や治療法の確立には至っていないが、従来からの5-アミノサリチル酸製剤や副腎皮質ステロイド薬、免疫調節薬による薬物療法や、血球成分除去療法（主に潰瘍性大腸炎）などの治療が施されている。さらに生物学的製剤として、抗TNF拮抗薬など新しい治療法が開発されてきている。内科的治療は生涯にわたって継続する必要があり、内科的治療で寛解とならない場合は、手術が必要となり、特にクローン病では手術率が高い。患者が多い欧米ではIBD（Inflammatory Bowel Disease）専門の看護師が支援しているが、国内では消化器難病をサブスペシャリティとする慢性疾患看護専門看護師が活動しているが少ない。ICTを活用した看護支援についても未だ発展途上である。

2. 研究の目的

炎症性腸疾患は、再燃を繰り返しやすい疾患であるが、食事療法や栄養療法、自己注射などのセルフケアによって、ある程度寛解維持させることも可能である。そこでセルフケアを支援するツールとしてスマートフォンなどで使うアプリケーションソフトを開発した。このアプリは、目標設定と日々の健康記録を残すポートフォリオ機能およびSNS機能を持つものである。本研究では、1)アプリの機能とデザインのバージョンアップと、2)入院中の炎症性腸疾患患者を対象としたセルフケア看護支援プログラムを実践・評価することを目的とした。

3. 研究の方法

1) アプリのバージョンアップ

これまでに開発したe-ポートフォリオは、目標設定、健康記録、情報共有をアプリ上で行うものである。目標設定：独自に作成したゴールシートによって健康状態や生活状況、セルフケア能力を自らアセスメントし、目標（マイゴール）を定める。マイゴールの達成に向けて何が必要か、毎日の生活の中でできそうな行動（マイアクション）を設定する。健康記録：ポートフォリオ・アプリには、日々のマイアクションの実施状況、症状（腹痛・下痢・その他）、服薬記録、検査結果、カメラ機能を用いた食事記録、健康管理に役立つWeb情報や画像などを保存する。デジタル化して保存されたデータは一覧表、グラフ、カレンダー機能によって俯瞰することができる。情報共有：利用者間でつながるコミュニケーション機能、受診日や自己注射日を知らせるリマインド機能も取り入れている。

さらにプログラムの実践に向けて、ポートフォリオ・アプリと目標設定のためのゴールシートの見直し、患者への使用説明書作成、セルフケア支援内容と手順の決定およびマニュアル作成、倫理委員会の審査、プレテストとして協力患者へのプログラムの実施と評価を行う。また、患者へプログラムを紹介するためのホームページを開設する。

2) 看護支援プログラムの実施

初発または再燃により入院した炎症性腸疾患患者の内、状態が安定し研究参加の同意が得られた者を対象とする。対象者数は実施可能性を考慮して20～30名を目指した。看護支援プログラムは、対象者への研究の説明と同意および面談による目標設定とポートフォリオ・アプリの説明（1回目の面談では、入院中に看護師が患者と共にこれまでの経過や現在の病状、生活状況、セルフケア能力の評価による生活の振り返りを行う。ゴールシートによって患者の願いや価値観を明確にし、目標設定を支援する。アプリの使い方を説明し、習得の支援を行う。2回目の面談で、これを確認する。）退院後の継続支援と支援終了面談（退院直後～6か月を目途に数回面談し、退院後の生活における活用状況を確認する。）以上を行う予定で準備を進めた。

4. 研究成果

1) アプリのバージョンアップ

より、入力しやすく見やすいデザインに一新し、手書きも可能なゴールシート用紙、患者への使用説明書の作成、Youtube動画、患者にプログラムを紹介するためのホームページの開設、患者向け炎症性腸疾患の総合情報誌への広報を行った。

2) 看護支援プログラムの実施

準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大により、研究者が病棟に入ることができなくなり、研究が中断した。感染の収束の予測が付かないため、新たな研究課題「オンライン診療と看護を組み合わせた炎症性腸疾患患者に対するセルフケア支援の構築（2021年度基盤研究（C））」に引き継ぎ、本事業は廃止させていただいた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 富田真佐子
2. 発表標題 e-ポートフォリオを用いたセルフケア支援アプリの開発（第2報）
3. 学会等名 日本慢性看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富田真佐子
2. 発表標題 炎症性腸疾患患者へのセルフケア支援アプリの開発 食事療法や栄養療法への活用ー
3. 学会等名 日本臨床栄養代謝学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

IBDマイノート（HP） https://peraichi.com/landing_pages/view/n4s2l IBDマイノート（アプリ） https://my-portfolio.info/

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------